

## 令和6年度緑化推進運動ポスター審査会 作品講評

長崎県美術協会 浅野類二

長崎県美術協会 一山信二

### <小学校の部門>

最優秀作品「みんなの木げんきな木」は、大胆に画面中央に大きく描かれた3つの顔がとても印象的で目を引いた。それぞれが元気よく両手を広げる姿、3つの顔を包み込むように描かれた葉っぱは、それらと呼応しているかのようにはじけんばかりに躍動感を伴って飛び出してくるように見える。背景に描かれた同心円状の明るい輪もとても効果的である。作者が込めたこの作品への思い「だいすきな木にみんなあつまれ」が素直に伝わってくる作品である。

優秀作品「大きなアコウの木の下で」は、アコウの大樹を横からではなく下から見上げる構図で描いたアイデアが光った。アコウの木の大きさや高さがより強調されていて、同時に長年にわたり生き抜いてきた木に対する作者の特別な思いが想像できる。木の下で楽しそうに談笑している光景も微笑ましい。心温まる作品である。

奨励賞作品は、いずれも森や樹木や植物の中に昆虫や鳥や動物たちがそこに登場している。実にこどもらしい視点で描かれていて愛らしい。それぞれの作品はしっかりと描かれていて個性や工夫が感じ取れる。木や自然は、自分たちにとってどんな存在なのかを素直に表現している作品である。

### <中学校の部門>

最優秀賞作品「色のある世界」は、自然の大切さや森と人間の関係また動物との関わりなど、今置かれている問題に対して自分たちのできることを啓発する作品になっている。地球を温かく育む優しい人の手を中心に据え、無関心な人間を鋭く見つめる鹿の視線が、我々の心に訴えてくる。色や描き方を工夫し、自然豊かな森や花々が心地よく表現されている。いわゆるデザイン的なべた塗り技法ではなく、あえて絵画風に描かれている点は、訴求効果があり、迫力のある作品に仕上がっている。

る。

優秀作品「四季の緑」は、一本の大樹をまるでリースのように花々で覆い、迫力ある空とのダブルイメージで、木(森・自然)の持つ意味や我々がなさねばならないことを訴えてくる。緻密な描き方で一つ一つの部分を丁寧に仕上げ、花や草や木が生き生きと表現されている点は好感が持てる。全体的に見ても美しさだけでなく迫力があり、見るものに自然の大切さや人間の関わりを訴えてくる秀作である。

中学生の作品はデザイン的な作品は少なく、その代わり絵画的な要素の強い作品が多かった。どちらがいいというわけではないが、自分の訴えたいことがより伝わる自分のやり方をもっと工夫すると様々な技法の作品が生まれてくると思われる。全体的にややおとなしい作品が多かったので、来年の作品に期待したい。

#### <高等学校の部門>

最優秀作品「モリモリ育て！みんなのみどり」は、小さな子どもから大人まで誰が見てもわかるような工夫が見られる。緻密に計算された色面構成とキャラクターが見事に自分の言いたいことを表現している。色の塗り方も基本を押さえ、丁寧に確かな技術がうかがわれる。難を言えばやや窮屈で、抜けの部分があるとさらに良くなると思われる。

高等学校の応募作品が年々少なくなり、寂しく思っている。今、林業にフォーカスされたり里山の復活に力を注いだりする番組などが増え、森林を考える機会も多くなってきたので、ぜひ高校生の新鮮な考えやアイデアがポスターとして上がってくることを期待している。